日商簿記3級
ステップアップ問題集

まえがき

簿記を経理担当者だけが必要とする知識と考えている方が多くいます。しかし、昨今のきびしい経済状況を考えると、企業の経営状態を数値化し、客観的に示すことのできる簿記の技術を身に付けることはビジネスマンにとって必須です。

簿記を学ぶことによって、企業の採算性、コスト管理、さらには、資金繰りといった企業の運営にとって必要な知識を身に付けることができます。また、これを基に、企業が将来進むべき方向性も明確になります。

この簿記の知識を身に付けるため、日本商工会議所が主催する簿記検定試験（通称、日商簿記検定）にチャレンジすることはたいへん有意義なことです。

本書は簿記学習初心者が日商簿記検定3級に合格するための実力を養成することを主眼に作成しました。本書をフルに活用し、本試験問題を確実に解答できる力を身に付けてください。

本書を学習された皆さんが合格することを心よりお祈り申し上げます。

資格の大原 簿記講座

本書の特長

学習効率を上げるため
テーマごとにまとめています。

第1章-1　簿記の学習を始めよう

番号	レベル	内容	問題頁	解答頁
1	基本	簿記の目的	P.4	P.124
2		損益計算書の作成	P.4	P.124
3		貸借対照表の作成	P.4	P.124
4	応用	損益計算書・貸借対照表の作成	P.4	P.124

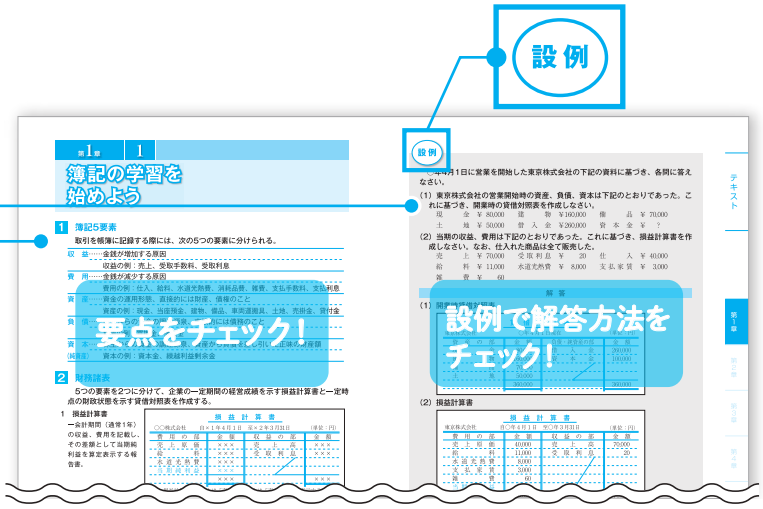
第1章-2　仕訳をマスターしよう

5	基本	仕　訳	P.6	P.125
6	応用	仕　訳	P.7	P.125

INPUT

〔基本知識／解答方法の確認〕

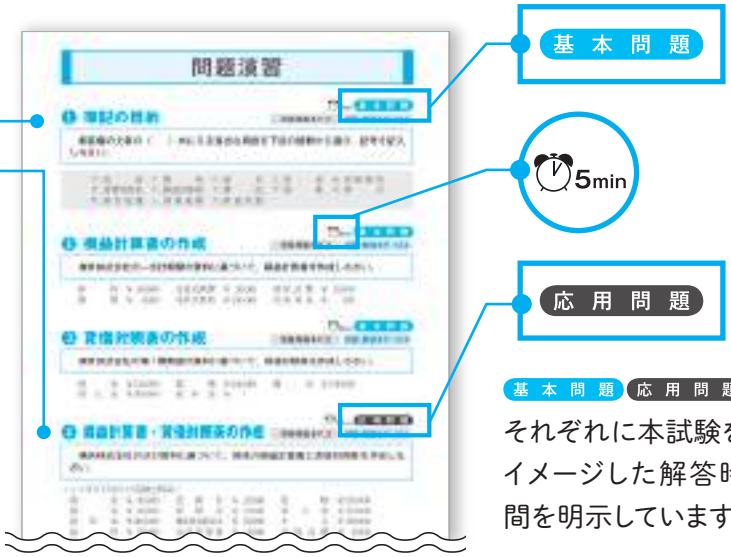
基本的な論点を確認した後、
実際に数値を使い解答方法
を確認します。



OUTPUT

〔基本問題／応用問題を解く〕

基本問題で知識の確認ができたら応用問題で本試験レベルの問題にチャレンジ！



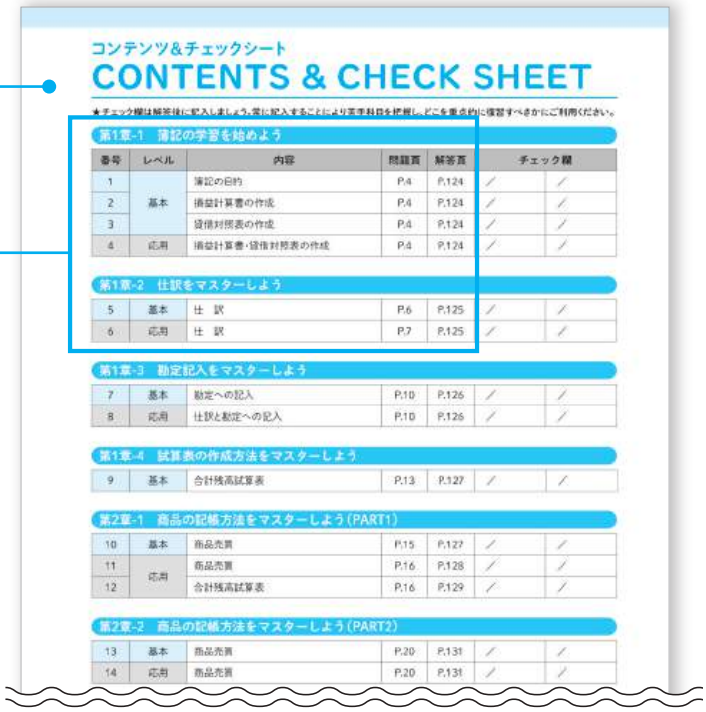
基本問題　応用問題

それぞれに本試験をイメージした解答時間を明示しています。

学習の状況をチェック！

解答の正誤などを常にチェックすることにより、苦手科目や重点的に復習すべき所を把握できます。

- なかなか復習の時間が取れない方は、過去問を解く前に間違えた箇所を再度チェック！



コンテンツ&チェックシート

CONTENTS & CHECK SHEET

★チェック欄は解答後に記入しましょう。常に記入することにより苦手科目を把握し、どこを重点的に復習すべきかにご利用ください。

第1章-1　簿記の学習を始めよう

番号	レベル	内容	問題頁	解答頁	チェック欄	
1	基本	簿記の目的	P.4	P.124	／	／
2		損益計算書の作成	P.4	P.124	／	／
3		貸借対照表の作成	P.4	P.124	／	／
4	応用	損益計算書・貸借対照表の作成	P.4	P.124	／	／

第1章-2　仕訳をマスターしよう

5	基本	仕　訳	P.6	P.125	／	／
6	応用	仕　訳	P.7	P.125	／	／

第1章-3　勘定記入をマスターしよう

7	基本	勘定への記入	P.10	P.126	／	／
8	応用	仕訳と勘定への記入	P.10	P.126	／	／

第1章-4　試算表の作成方法をマスターしよう

9	基本	合計残高試算表	P.13	P.127	／	／

第2章-1　商品の記帳方法をマスターしよう（PART1）

10	基本	商品売買	P.15	P.127	／	／
11	応用	商品売買	P.16	P.128	／	／
12		合計残高試算表	P.16	P.129	／	／

第2章-2　商品の記帳方法をマスターしよう（PART2）

13	基本	商品売買	P.20	P.131	／	／
14	応用	商品売買	P.20	P.131	／	／

解答用紙が！！

抜き取り方式になっており、学習の際に便利です！

- 解き直しには資格の大原書籍販売サイト大原ブックストア内の「解答用紙 DL サービス」をご利用ください！

★ 関連法規改正にいち早く対応

関連法規改正にいち早く対応しています。近年の日本の会計は、頻繁に改正が行われています。それに伴い、現在の会計に沿う内容に修正しておりますので、現行法令等に沿った内容で解答することができます。

日商簿記3級

ステップアップ問題集

問題編

第1章 1

簿記の学習を始めよう

1 簿記5要素

取引を帳簿に記録する際には、次の5つの要素に分けられる。

収　益……金銭が増加する原因
　収益の例：売上、受取手数料、受取利息

費　用……金銭が減少する原因
　費用の例：仕入、給料、水道光熱費、消耗品費、雑費、支払手数料、支払利息

資　産……資金の運用形態、直接的には財産、債権のこと
　資産の例：現金、当座預金、建物、備品、車両運搬具、土地、売掛金、貸付金

負　債……他人からの資金の調達源泉、直接的には債務のこと
　負債の例：買掛金、借入金

資　本……株主からの資金の調達源泉、資産から負債を差し引いた正味の財産額
(純資産)　資本の例：資本金、繰越利益剰余金

2 財務諸表

5つの要素を2つに分けて、企業の一定期間の経営成績を示す損益計算書と一定時点の財政状態を示す貸借対照表を作成する。

1 損益計算書

一会計期間（通常1年）の収益、費用を記載し、その差額として当期純利益を算定表示する報告書。

損　益　計　算　書

○○株式会社　　自×1年4月1日　至×2年3月31日　　（単位：円）

費用の部	金額	収益の部	金額
売上原価	×××	売上高	×××
給料	×××	受取利息	×××
水道光熱費	×××		
当期純利益	×××		
	×××		×××

（注）損益計算書上、売上は「売上高」、仕入は「売上原価」と表示する。

2 貸借対照表

一定時点（期末）の資産、負債、資本を記載する報告書。なお、資本は純資産の部に記載する。

貸　借　対　照　表

○○株式会社　　×2年3月31日現在　　（単位：円）

資産の部	金額	負債・純資産の部	金額
現金	×××	借入金	×××
売掛金	×××	資本金	×××
建物	×××	繰越利益剰余金	×××
土地	×××		
	×××		×××

（注）貸借対照表上、当期純利益は繰越利益剰余金に加算される。

設例

○年4月1日に営業を開始した東京株式会社の下記の資料に基づき、各問に答えなさい。

(1) 東京株式会社の営業開始時の資産、負債、資本は下記のとおりであった。これに基づき、開業時の貸借対照表を作成しなさい。

現　　金	¥	80,000	建　　物	¥	160,000	備　　品	¥	70,000
土　　地	¥	50,000	借 入 金	¥	260,000	資 本 金	¥	?

(2) 当期の収益、費用は下記のとおりであった。これに基づき、損益計算書を作成しなさい。なお、仕入れた商品は全て販売した。

売　　上	¥	70,000	受取利息	¥	20	仕　　入	¥	40,000
給　　料	¥	11,000	水道光熱費	¥	8,000	支払家賃	¥	3,000
雑　　費	¥	60						

解　答

(1) 開業時貸借対照表

貸　借　対　照　表

東京株式会社　　○年４月１日現在　　(単位：円)

資産の部	金額	負債・純資産の部	金額
現　　金	80,000	借 入 金	260,000
建　　物	160,000	資 本 金	100,000
備　　品	70,000		
土　　地	50,000		
	360,000		360,000

(2) 損益計算書

損　益　計　算　書

東京株式会社　　自○年４月１日　至○年３月31日　　(単位：円)

費用の部	金額	収益の部	金額
売上原価	40,000	売 上 高	70,000
給　　料	11,000	受取利息	20
水道光熱費	8,000		
支払家賃	3,000		
雑　　費	60		
当期純利益	7,960		
	70,020		70,020

解　説

(1) 貸借対照表を作成する際には、資産を左側、負債、資本を右側に記載する。最後に左右の合計額の一致を確認して締め切る。

(2) 損益計算書は下記の手順で作成する。

1．収益を右側に記載する。なお、売上は「売上高」と表示する。
2．費用を左側に記載する。なお、仕入は「売上原価」と表示する。
3．収益の合計額と費用の合計額の差額を求める。プラスの金額になれば、当期純利益である。これは左側に記入（当期純利益は朱記）する。
　また、マイナスの金額になれば、当期純損失である。これは右側に記入（当期純損失は朱記）する。
4．最後に左右の合計額の一致を確認して、締切りを行う。

問題演習

❶ 簿記の目的

5min 基本問題

解答用紙▶P.2　解答・解説▶P.124

解答欄の文章の（　　）内に入る適当な用語を下記の語群から選び、記号を記入しなさい。

ア. 収　　益　イ. 費　　用　ウ. 資　　本　エ. 資　　産　オ. 財 務 諸 表
カ. 貸借対照表　キ. 損益計算書　ク. 簿　　記　ケ. 現　　象　コ. 取　　引
サ. 経 営 成 績　シ. 事 業 規 模　ス. 財 政 状 態

❷ 損益計算書の作成

5min 基本問題

解答用紙▶P.2　解答・解説▶P.124

東京株式会社の一会計期間の資料に基づいて、損益計算書を作成しなさい。

給　　料	￥ 60,000	水道光熱費	￥ 30,000	消 耗 品 費	￥ 15,000
雑　　費	￥ 9,000	受取手数料	￥150,000	受 取 利 息	￥ 300

❸ 貸借対照表の作成

5min 基本問題

解答用紙▶P.2　解答・解説▶P.124

東京株式会社の第１期期首の資料に基づいて、貸借対照表を作成しなさい。

現　　金	￥120,000	建　　物	￥240,000	備　　品	￥100,000
借 入 金	￥300,000	資 本 金	￥ ？		

❹ 損益計算書・貸借対照表の作成

10min 応用問題

解答用紙▶P.3　解答・解説▶P.124

横浜株式会社の次の資料に基づいて、期末の損益計算書と貸借対照表を作成しなさい。

＜×××年３月31日の各勘定残高＞

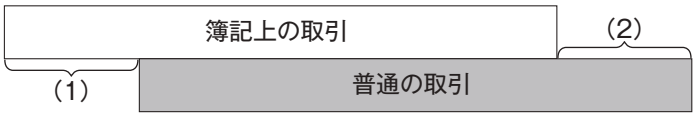
現　　金	￥ 80,000	売 掛 金	￥ 27,000	建　　物	￥270,000
備　　品	￥ 90,000	買 掛 金	￥ 15,000	借 入 金	￥152,000
資 本 金	￥200,000	繰越利益剰余金	￥ 50,000	仕　　入	￥190,000
給　　料	￥ 50,000	水 道 光 熱 費	￥ 13,000	消 耗 品 費	￥ 6,000
雑　　費	￥ 2,000	売　　上	￥310,000	受 取 利 息	￥ 1,000

なお、繰越利益剰余金勘定残高の￥50,000は、当期純利益を加算する前の金額である。

仕訳をマスターしよう

1 取　引

簿記上の取引は資産、負債、資本、収益、費用の増減変化をもたらすものである。



(1) 店舗が火災で焼失した。商品が盗難に遭った。
★一般的に取引とはいわないが、資産等の増減を伴う➔ ∴ 簿記上の取引

(2) 取引先と契約を交わした。
★一般的には取引というが、単に契約を結んだだけでは、資産等の増減を伴わない➔
∴ 簿記上の取引ではない

2 帳簿への記入手順

帳簿への記入手順は次のとおりになる。

取　引 ➔ 仕　訳 ➔ 勘定への記入

3 仕　訳

仕訳とは、取引を発生した日付順に帳簿に記入することをいう。その記入方法は次のようになる。

（借方科目）	金　額	（貸方科目）	金　額

★1　勘定の左側を「借方」、右側を「貸方」という。
★2　借方金額と貸方金額は同額となる。（貸借平均の原則）

〔仕訳の法則〕
仕訳は、次の法則に従って行う。

借方に仕訳されるもの	貸方に仕訳されるもの
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
資本の減少	資本の増加
費用の発生	収益の発生

設例

次の取引の仕訳を行いなさい。なお、簿記上の取引に該当しない場合は「仕訳不要」と記入すること。

２月５日　備品￥50,000を購入し、代金は現金で支払った。
12日　現金￥120,000をＡ銀行から借り入れた。
20日　大阪商店と商品の仕入れに関して契約を結んだ。
24日　水道光熱費￥4,000を現金で支払った。
28日　京都商店より手数料￥30,000を現金で受け取った。

解　答

日　付	借　方　科　目	金　　額	貸　方　科　目	金　　額
2／5	備　　品	50,000	現　　金	50,000
12	現　　金	120,000	借　入　金	120,000
20	仕　訳　不　要			
24	水　道　光　熱　費	4,000	現　　金	4,000
28	現　　金	30,000	受　取　手　数　料	30,000

解　説

仕訳の法則に沿って説明する。なお、仕訳の借方、貸方の金額は必ず一致する。

２月５日　借方（備　　品）は資産の増加、貸方（現　　金）は資産の減少
12日　借方（現　　金）は資産の増加、貸方（借　入　金）は負債の増加
20日　単に契約を結んだだけでは、資産等の増減が生じないため、簿記上の取引とはならない。よって、仕訳は行わない。
24日　借方（水道光熱費）は費用の発生、貸方（現　　金）は資産の減少
28日　借方（現　　金）は資産の増加、貸方（受取手数料）は収益の発生

問題演習

❺ 仕　　訳

5min　基本問題

解答用紙▶P.3　解答・解説▶P.125

次の取引の仕訳を行いなさい。

３月５日　車両運搬具￥300,000を購入し、代金は現金で支払った。
12日　現金￥600,000をＡ銀行より借り入れた。
25日　従業員の給料￥160,000を現金で支給した。
31日　梅田社より手数料￥45,000を現金で受け取った。

❻ 仕　　訳

解答用紙▶P.4　解答・解説▶P.125

次の取引の仕訳を行いなさい。勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現　　金	貸 付 金	備　　品	借 入 金
資 本 金	給　　料	消 耗 品 費	水道光熱費
支払手数料	支 払 利 息	受取手数料	受 取 利 息

4月2日　現金￥100,000を難波商店に貸し付けた。
　5日　備品￥250,000を購入し、代金は現金で支払った。
12日　A銀行からの借入金￥50,000を返済し、その利息￥200とともに現金で支払った。
18日　水道代￥5,000を現金で支払った。
20日　甲文具店より、事務用消耗品￥7,600を購入し、代金は現金で支払った。
25日　従業員の給料￥171,000を現金で支給した。
27日　奈良商店より手数料￥53,000を現金で受け取った。
5月7日　難波商店に対する貸付金￥100,000を回収し、その利息￥250とともに現金で受け取った。

日商簿記3級

ステップアップ問題集

解答・解説編

❶ 簿記の目的

テキスト▶P.4

1.（ク：簿記）とは、企業の（コ：取引）を帳簿に記入する技術のことである。企業はこの帳簿に基づき、一定期間の（サ：経営成績）を明らかにする（キ：損益計算書）と一定期日の（ス：財政状態）を明らかにする（カ：貸借対照表）を作成する。
2.（キ：損益計算書）は、（ア：収益）と（イ：費用）を対比させ、当期純利益を表示する。
3.（カ：貸借対照表）は、（エ：資産）と負債および（ウ：資本）を記載する。

❷ 損益計算書の作成

テキスト▶P.4

損 益 計 算 書

東京株式会社　　自××年４月１日　至××年３月31日　　（単位：円）

費用の部	金額	収益の部	金額
給料	60,000	受取手数料	150,000
水道光熱費	30,000	受取利息	300
消耗品費	15,000		
雑費	9,000		
当期純利益	36,300		
	150,300		150,300

解説　当期純利益の計算
（￥150,000＋￥300）－（￥60,000＋￥30,000＋￥15,000＋￥9,000）＝￥36,300
（収益の部合計）　（費用の部合計）

❸ 貸借対照表の作成

テキスト▶P.4

貸 借 対 照 表

東京株式会社　　××年４月１日現在　　（単位：円）

資産の部	金額	負債・純資産の部	金額
現金	120,000	借入金	300,000
建物	240,000	資本金	160,000
備品	100,000		
	460,000		460,000

解説　資本金の計算　（￥120,000＋￥240,000＋￥100,000）－￥300,000＝￥160,000
（資産の部合計）　（負債の部合計）

❹ 損益計算書・貸借対照表の作成

テキスト▶P.4

損 益 計 算 書

横浜株式会社　　自××年４月１日　至××年３月31日　　（単位：円）

費用の部	金額	収益の部	金額
売上原価	190,000	売上高	310,000
給料	50,000	受取利息	1,000
水道光熱費	13,000		
消耗品費	6,000		
雑費	2,000		
当期純利益	50,000		
	311,000		311,000

貸 借 対 照 表

横浜株式会社　　××年３月31日現在　　(単位：円)

資産の部	金額	負債・純資産の部	金額
現金	80,000	買掛金	15,000
売掛金	27,000	借入金	152,000
建物	270,000	資本金	200,000
備品	90,000	繰越利益剰余金	100,000
	467,000		467,000

解説

当期純利益の計算

(￥310,000＋￥1,000)（収益の部合計）－(￥190,000＋￥50,000＋￥13,000＋￥6,000＋￥2,000)（費用の部合計）

＝￥50,000

繰越利益剰余金の計算

問題資料に示されている￥50,000に当期純利益の￥50,000を加算して求める。

❺ 仕　訳

テキスト▶P.6

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
3／5	車両運搬具	300,000	現金	300,000
12	現金	600,000	借入金	600,000
25	給料	160,000	現金	160,000
31	現金	45,000	受取手数料	45,000

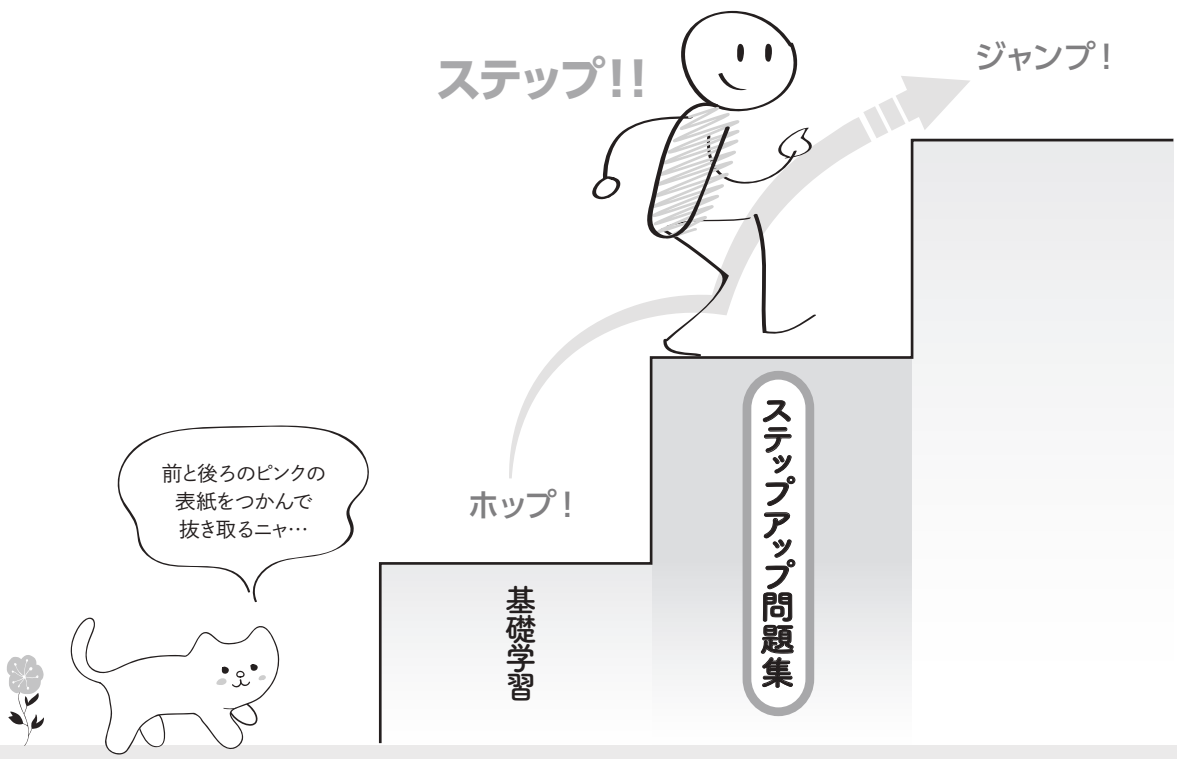
❻ 仕　訳

テキスト▶P.7

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4／2	貸付金	100,000	現金	100,000
5	備品	250,000	現金	250,000
12	借入金	50,000	現金	50,200
	支払利息	200		
18	水道光熱費	5,000	現金	5,000
20	消耗品費	7,600	現金	7,600
25	給料	171,000	現金	171,000
27	現金	53,000	受取手数料	53,000
5／7	現金	100,250	貸付金	100,000
			受取利息	250

日商簿記3級

ステップアップ問題集



解答用紙

本気になったら大原

大原出版

CONTENTS

1 簿記の目的 …… P.2
2 損益計算書の作成 …… P.2
3 貸借対照表の作成 …… P.2
4 損益計算書・貸借対照表の作成 …… P.3
5 仕　訳 …… P.3
6 仕　訳 …… P.4
7 勘定への記入 …… P.4
8 仕訳と勘定への記入 …… P.4
9 合計残高試算表 …… P.5
10 商品売買 …… P.6
11 商品売買 …… P.6
12 合計残高試算表 …… P.7
13 商品売買 …… P.8
14 商品売買 …… P.9
15 現金および現金過不足 …… P.9
16 現金および現金過不足 …… P.9
17 普通預金 …… P.10
18 当座預金・当座借越 …… P.10
19 当座預金・当座借越 …… P.10
20 約束手形 …… P.11
21 約束手形 …… P.11
22 電子記録債権・債務 …… P.12
23 電子記録債権・債務 …… P.12
24 有形固定資産 …… P.12
25 その他の債権・債務 …… P.12
26 その他の債権・債務 …… P.13
27 収益勘定・費用勘定 …… P.13
28 収益勘定・費用勘定 …… P.14
29 株式会社の資本 …… P.14
30 消費税 …… P.14
31 訂正仕訳 …… P.15
32 訂正仕訳 …… P.15
33 総まとめ1 …… P.15
34 総まとめ2 …… P.16
35 総まとめ3 …… P.16
36 補助簿の相関関係 …… P.17
37 当座預金出納帳 …… P.17
38 小口現金 …… P.17
39 小口現金出納帳 …… P.18
40 小口現金出納帳 …… P.18
41 受取手形記入帳 …… P.19
42 支払手形記入帳 …… P.19
43 受取手形記入帳 …… P.20
44 手形記入帳 …… P.20
45 買掛金元帳 …… P.20
46 売掛金元帳 …… P.21
47 仕入帳 …… P.22
48 仕入帳 …… P.22
49 商品有高帳 …… P.22
50 商品有高帳 …… P.23
51 商品有高帳 …… P.24
52 商品有高帳 …… P.25
53 固定資産台帳 …… P.25
54 合計残高試算表 …… P.26
55 伝票（3伝票制） …… P.27
56 伝票（3伝票制） …… P.27
57 伝票（3伝票制） …… P.27
58 伝票（3伝票制） …… P.27
59 伝票（3伝票制） …… P.28
60 伝票（3伝票制） …… P.28
61 伝票（3伝票制） …… P.28
62 仕訳日計表 …… P.29
63 証ひょう1 …… P.30
64 証ひょう2 …… P.30
65 売上原価の算定 …… P.30
66 売上原価の算定 …… P.30
67 売上原価の算定 …… P.31
68 貸倒れ・貸倒引当金 …… P.31
69 減価償却 …… P.31
70 有形固定資産の仕訳 …… P.32
71 有形固定資産の訂正仕訳 …… P.32
72 費用・収益の決算整理 …… P.32
73 収益の決算整理（訂正仕訳） …… P.33
74 現金・現金過不足の処理 …… P.33
75 現金の処理 …… P.33
76 現金過不足の仕訳 …… P.33
77 当座借越の振替え …… P.34
78 貯蔵品の処理 …… P.34
79 消費税の処理 …… P.34
80 法人税等の処理 …… P.34
81 決算整理後残高試算表の作成 …… P.35
82 精算表1 …… P.36
83 精算表2 …… P.37
84 精算表3 …… P.38
85 精算表4 …… P.39
86 精算表5 …… P.40
87 精算表6 …… P.41
88 帳簿の締切り …… P.43
89 決算振替仕訳 …… P.43
90 商品に関する各勘定の締切り …… P.44
91 損益計算書と貸借対照表の作成 … P.45
92 損益計算書と貸借対照表の作成 … P.46
93 損益計算書と貸借対照表の作成 … P.47
94 損益計算書と貸借対照表の作成 … P.48

❶ 簿記の目的

テキスト▶P.4　解答・解説▶P.124

1.（　　）とは、企業の（　　）を帳簿に記入する技術のことである。 企業はこの帳簿に基づき、一定期間の（　　）を明らかにする（　　）と一定期日の（　　）を明らかにする（　　）を作成する。

2.（　　）は、（　　）と（　　）を対比させ、当期純利益を表示する。

3.（　　）は、（　　）と負債および（　　）を記載する。

❷ 損益計算書の作成

テキスト▶P.4　解答・解説▶P.124

損　益　計　算　書

東京株式会社　　自××年４月１日　至××年３月31日　　（単位：円）

費用の部	金額	収益の部	金額
給料		受取手数料	
当期純利益			

❸ 貸借対照表の作成

テキスト▶P.4　解答・解説▶P.124

貸　借　対　照　表

東京株式会社　　××年４月１日現在　　（単位：円）

資産の部	金額	負債・純資産の部	金額

❹ 損益計算書・貸借対照表の作成

テキスト▶P.4　解答・解説▶P.124

損　益　計　算　書

横浜株式会社　　自××年４月１日　至××年３月31日　　（単位：円）

費　用　の　部	金　額	収　益　の　部	金　額
売　上　原　価		売　上　高	
当　期　純　利　益			

貸　借　対　照　表

横浜株式会社　　××年３月31日現在　　（単位：円）

資　産　の　部	金　額	負債・純資産の部	金　額
現　　金			
		繰越利益剰余金	

❺ 仕　　訳

テキスト▶P.6　解答・解説▶P.125

日　付	借　方　科　目	金　　額	貸　方　科　目	金　　額
3／5				
12				
25				
31				

❻ 仕　　訳

テキスト▶P.7　解答・解説▶P.125

日　付	借　方　科　目	金　　額	貸　方　科　目	金　　額
4／2				
5				
12				
18				
20				
25				
27				
5／7				

HINT

4月12日　借入金の返済によって、借入金という債務が減少する。
　　これは負債の減少となる。また、支払った利息は費用になる。
5月７日　貸付金を回収することによって、貸付金という債権が減少する。
　　これは資産の減少となる。また、受け取った利息は収益となる。

なお、両仕訳とも借方もしくは貸方の勘定科目が複数になるが、仕訳の借方、貸方の合計金額は貸借平均の原則によって同額となるので、チェックをすること。

❼ 勘定への記入

テキスト▶P.10　解答・解説▶P.126

現　　金	

借　入　金	

給　　料	

受取手数料	

❽ 仕訳と勘定への記入

テキスト▶P.10　解答・解説▶P.126

日　付	借　方　科　目	金　　額	貸　方　科　目	金　　額
6／5				
12				
18				
20				
25				
27				